
鳥羽小学校用地選定懇話会会議デザイン
及びコーディネート
平成17年4月25日

報 告 書

【事業目標】

～～子どもたちの未来、鳥羽の未来のしあわせのために

ふさわしい、鳥羽小学校用地を選定しよう～

【企画・進行管理】

NPO法人伊勢志摩NPOネットワークの会

会長 中村 元

担当 協働コーディネート担当事務局次長 川村 透

■INDEX

【事業目的】 「行政、市民、NPO、共通の目的を持って」

【対象】 「パートナーとオブザーバー」

【事業の構成】 「協働型会議の構成」

【運営体制】 「協働型会議の運営」

【協働型会議企画上の重要な留意点 その①】 「透明性と公開性の確保」

【協働型会議企画上の重要な留意点 その②】 「ルール／プロセス重視」

【協働型会議企画上の重要な留意点 その③】 「議論の大前提」

【事業の概要】 「主に市長への申し入れ書 より」

【事業のプロセス】 「ライブ・レポート」

【アドバイザー所見】 「協議の意義」

【総括】 「協働のしくみ及び、ビジョンの未成熟が課題」

【事業目的】 「行政、市民、NPO、共通の目的を持って」

- ① 子どもたちの未来のために、しあわせのためにを第一に考えて、ふさわしい鳥羽小学校用地を選定する。
- ② できうる限り、早期実現を目指しうる用地としたい。
- ③ 鳥羽のこれからのまちづくりとの整合性を熟慮した上で用地を考える

(第二回懇話会において、まちづくりとの整合性についての議論は、鳥羽市が別の機会を設けるということを条件に、教育委員会の持つ将来の教育環境(学校統廃合含む)ビジョンを前提とした「整合性」に限定することとした。)

- ④ 市民、行政、企業、が信頼関係を深め、協働のスタンスや仕組みが鳥羽にいきづくようなプロセスをともに創ってゆく。

(上記は、NPO法人伊勢志摩NPOネットワークの会のミッションを表現している。本事業は、ただの業務委託ではなく、鳥羽市とわれわれが、同じ目的を共有している対等なパートナーとして、資源を持ち寄り、役割を分担し、目標を明確にして取り組む「協働」事業なのである)

【対象】 「パートナーとオブザーバー」

鳥羽小学校用地選定懇話会委員、同会議オブザーバー、鳥羽市民、鳥羽市職員

【事業の構成】 「協働型会議の構成」

鳥羽小学校用地選定懇話会 協働型会議(ワークショップ)企画進行	5回
同上実務者協働型会議(ワークショップ)企画進行	3回
同上市民説明会企画進行	1回

※ワークショップ=参加者が、討論したり現場を見たりするなどの協働作業を通じて、前向きな意欲を引き出し、お互いの考えや立場の違いを学びあいながら、提案などをまとめる手法であり、その集まり(場)のこと。以下WSと略記する。

【運営体制】 「協働型会議の運営」

- ① 鳥羽市役所 教育委員会 を事務局とする。
- ② NPO法人伊勢志摩NPOネットワークの会 川村 透をファシリテーターとする。
- ③ 同上 森本かおりをレコーダーとする。
- ④ 同上 その他メンバーを、会議運営のボランティアスタッフとする。

- ⑤ 同上 その他メンバーのうち一名を、会議議事録速記役とする。
- ⑥ 三重大学 助教授 浅野 聡 氏をアドバイザーとする。
- ⑦ HP による懇話会情報公開、市民コメント受付、ブログ運営担当を 川村 透とする

ただし、⑤(議事録)、⑦(HP)は、目的達成のため、緊急避難的に、やむを得ず無償ボランティアで行った。

- ⑧ 鳥羽市役所 教育委員会は、暫定的に、鳥羽小学校建設事業が決定した場合に関連があると想定された、鳥羽市役所内各課の実務者を横断的に、必要に応じて収集し、(教育委員会、まちづくり課、財政、企画、建設課(建築及び土木)など)、川村 透をファシリテーターとして、実務者WSを開く。

実務者WSの目的は、鳥羽小学校にふさわしい用地を選定するとき、主語を教育委員会は、ではなく「鳥羽市は」と言えるようにする、少なくとも会議のプロセスにおいてその状態に限りなく近づけ、議論の前提が崩れないようにすること、である。

鳥羽市の機能として、大きなプロジェクトに対して、事業が未決定の段階で、事前に、予防的に「評価」の基準を持って、各課の縦割りのくくりを超え、横断的にとりくむ会議体を設ける仕組みがないゆえの、苦肉の策である。

- ⑨ 本懇話会参加者の中から、座長と副座長を推薦し、第一回会議において参加者の合意のもと以下のように決定した。座長は、本懇話会を代表する「顔」の役目を果たすが、参加者同士は平等な市民であるというスタンスから、基本的にはやむを得ない場合を除き「単純多数決」による意思決定はしない、ゆえに、最終局面での特別な議決権などの権限はもたないものとした。

座長、大松正嗣さん、副座長 河村 豊さん

※ファシリテーター=公正、中立の立場で議論を活性化させ、目的からずれることなく成果を出しやすくする進行役、議論の水先案内人。

※レコーダー=協働型会議において、議論の進行に合わせ、その要点を、壁に張った模造紙にわかりやすく記録し、参加者が会議の内容を共有しやすくする役目。

【協働型会議企画上の重要な留意点 その①】 「透明性と公開性の確保」

鳥羽小学校用地選定懇話会は、今までの審議会形式のように、限られた委員だけの議論に終始しないように以下の通り出来る限りの公開性と公平性を担保した。

ただし委員選定にあたっては、4年にもわたる鳥羽小学校建設の経緯を理解した上で議論

を開始する必要性、それから、**責任ある議論を展開**するという見地から関係各位に相談しアドバイザーの意見をもらった上で**委員メンバーを鳥羽市教育委員会が選んだ**。

1. 検討する鳥羽小学校用地案は、**自治会、PTAからの提案**に加え、**広報とば**にて一定の期限を設けた上での「**公募**」とし、期間内に責任ある提案がなされた用地案を検討対象とした。もちろん**提案企業**の皆さんにも、懇話会の開催を案内し、**自由にオブザーブ**できる、ガラス張りの会議とした。
2. 中立の市民セクターが、会議の進行役となる、**WS形式**とした。
3. **ファシリテーター**(進行役)が恣意的な誘導を行わないように、**有識者のアドバイザー(三重大学 助教授 浅野 聡 先生)**を置き、WSの信頼性、**中立性を担保**した。
4. 懇話会は**すべて市民公開**のWSとした。
5. 途中経過を**ライブレポート**として**随時HPに公開**し、HPに寄せられた意見、コメントも**懇話会に報告、共有**した上で議論を進めた。
6. 用地選定の会議は、**ふさわしさの指標を数値化して評価する手法**をとり、実現性を出来る限りリアルにシミュレーションしながら客観的な成果をつくることとした。これにより、委員各位が「恣意的」「**覇権的**」なふるまいをすること、あるいは外部からの「恣意的」「**覇権的**」な利害誘導による「**政治的単純多数決**」の弊害から守られるように工夫した。
7. **途中経過及び懇話会の成果を広報誌に掲載**し広く情報公開につとめた。
8. 懇話会の結論が出て、市長への申し入れを行った後、HPに掲載するとともに、市民公開の説明会を開催した。
9. **市民公開の説明会開催案内は、広報とばに折込**とし、学区内自治会、保護者の皆さん、PTA各位、懇話会、特に小浜町の皆さん、小浜の協議中の観光関係各位、観光協会、商工会議所、**旅館組合等**、出来る限り書面等で案内し、**呼びかけ**ました。鳥羽小学校PTAの皆さんにも、役員連絡網を通じて直前にも念を押してTELをまわしていただきました。
10. 「鳥羽小学校用地選定懇話会の一般市民向け公開説明WS」添付資料である「市長への申し入れ書」と、一枚資料のダイジェスト資料を、説明会にこられなかった皆さんに出来る限り伝えるために、**各自治会を通して回覧板として閲覧**をしていただく段取りとなっています。また同資料を、市内各種団体にも配布する予定です。
11. 「鳥羽小学校用地選定懇話会の一般市民向け公開説明WS」添付資料である「市長への申し入れ書」と、一枚資料のダイジェスト資料を、**図書館にて閲覧**できるように段取りをしています。

【協働型会議企画上の重要な留意点 その②】「ルール／プロセス重視」

■ ルールとプログラム、指標で客観的に評価

協働型会議は、公正なルールによって運営されるべきである。ひとりひとはフラットな関係で、真剣に成果を出すことにコミットしなければならないが、同時に「楽しく」「有意義」に、心から、身体ごと参加できるように、細心をこめた「参加のデザイン」を心がけた。

参加者同士は平等な市民であるというスタンスから、基本的にはやむを得ない場合を除き「単純多数決」による意思決定はしない。代わりに、各会議の目標を明確化し、合意に至るプロセスと手法=プログラムを明らかにし、指標=ものさしによる数値的な評価手法により合理的で客観的な「合意」を創造することとした。

■ プロセス重視のスタンス

協働型会議は、プロセスがすべて、である。結果はむしろ、「従」である。参加者ひとりひとり異なった価値観のせめぎあいの中から、一步一步「成果」を築き上げる過程=プロセスこそが本質である。

■ WSって何？

1. WSは会議なんです
2. みんなが対等です
3. 楽しく有意義に参加しやすく工夫されている会議なんです
4. ファシリテーター（中立、議論の水先案内人）が進行します
5. 目的を決めて一步一步進んで行き後戻りをしません。

■ WSのルール（あたりまえのマナーを約束しよう）

1. 進行役(ファシリテーター)の指示に従ってください
2. 個人攻撃や、誹謗中傷をしないこと
3. 1発言、1分ルール
4. 参加者は対等の市民です。地位立場、肩書きにとらわれすぎず参加しましょう
5. 他の参加者に肩書きを期待した発言を強要してはいけません。

【協働型会議企画上の重要な留意点 その③】「議論の大前提」

白紙撤回とは

鳥羽小学校の用地として、神鋼以外の他の用地をさがすことにした時点

■ 現在敷地の取り扱い

現敷地において改築（建て替え）はありえない。旧校舎のリフォームはありえない。

【事業の概要】 「主に市長への申し入れ書 より」

1. 鳥羽小学校建設候補地の選定

鳥羽小学校(将来的に小浜小学校及び坂手小学校との統合を考える)に望ましいとした選定地区

○小浜地区(小浜町「阿波海」の裏山の土地)

ただし、通学路の安全確保、地震津波対策と避難経路、地元である小浜町の観光影響対策と、子どもたちの安全安心のための対策、市民で作成した各選定指標をできる限りクリアする、などの課題がある。

○次点 堅神地区(堅神公民館の裏山の土地)

○次次点 赤崎地区(赤崎神社の裏山の土地=極めて困難である)

2. 候補地選定の懇話会の選定経過の概要

□鳥羽小学校にふさわしい建設用地とは？

本懇話会は、PTA、ボランティアで創る鳥羽小学校建設実行委員会、小学校OB代表、自治会、婦人会、など市民の皆さんが委員となって、子どもたちの未来のしあわせを第一に考え、できる限り早期実現を目指して、ふさわしい鳥羽小学校建設用地を選定するために、NPO法人伊勢志摩NPOネットワークの会が進行役となり市民と協働で創り上げる会議=WS（ワークショップ）形式で進めました。

鳥羽小学校PTAの皆さんの「ふさわしい用地をえらぶ物差しづくり」のWSをもとに、PTA校区自治会からの提案・公募期間に用地提供の申し出や提案があった11の土地（現敷地を除く、現校舎のリフォームを除く）を対象に議論を深めました

（ 1 ） スタートラインに立とう「第一回懇話会」平成16年9月3日

第一回テーマ「スタートラインに立とう確認と共有のセッション」では、ボランティアで創る鳥羽小建設委員会の頃から、今までのいきさつを振り返り、目的を共有し、ここで議論されたことが鳥羽市に正式に最優先で取り上げられることとしました。

□ 第一回 実務者ワークショップ 平成 16 年 9 月 22 日

鳥羽小学校にふさわしい用地を選定するとき、**主語を教育委員会**は、ではなく「**鳥羽市は**」と言えるように、まず、各担当課の実務者レベルで WS を行い、鳥羽市版の選定基準の足切り基準として最低限クリアしなければならないものは何か(面積規模、造成、予算、法規、工期など)。鳥羽小学校と「まちづくりとの整合性」今どうなっているのかを、共有する。

(2) 候補地を理解して絞り込む「第二回懇話会」平成 16 年 10 月 13 日

第二回テーマ「今、どこが候補地にあがっているか、そのよいところと悪いところを理解して、大きく絞り込んでみよう」では、鳥羽市としての選定基準、費用、期間、交渉性、地震津波、土壌などの安全性、合法性などと、市民としての 9 の選定基準、(安全に通学できる、広くてのびのびできる、地域の人が見守りやすいなど)に照らし合わせて大きく五つの候補地に絞り込みました。

(3) 公開ヒヤリングで理解を深める「第三回懇話会」平成 16 年 10 月 27 日

第三回テーマ「絞られた候補地のよいところとわるいところをさらにくわしく理解しよう、そしてもっと絞り込んでみよう STEP1」では、提案をいただいた企業の方と公開ヒヤリングを行い、具体的な用地の姿や通学路などをイメージして質疑を繰り返し理解を深めていきました。

□ 第二回実務者ワークショップ 平成 16 年 11 月 12 日

今までの懇話会での議論を共有し、行政手続として「問題点」は生じないか、候補地 5 件について意見だしをし、その解決策を宿題とします。

(4) さらに候補地を絞ろう「第四回懇話会」平成 16 年 11 月 18 日

第四回テーマ「しぼられた候補地のよいところとわるいところを総復習してから、ひとつの候補地に決めてみよう」で、市役所内実務者の WS の成果を参考にしながら、具体的に、ルールを決めた上で、市民でつくった指標をもとに、ポイント制で順位をつけました。結果は、以下の三つの候補地が伯仲しているため、ベスト 1 の決定はさらに精査して次回に検討することとなりました。

NO3.赤崎神社の裏山の土地

NO4.堅神公民館の裏山の土地

NO5.小浜町「阿波海」の裏山の土地

□ 第三回実務者ワークショップ 平成16年12月21日

議題は、「宿題」の整理と各課への割り振りさらに、当該企業にどのような資料を出してもらうのか、その共通フォーマットをつくる、ということです。

(5) ひとつの候補地に決めよう「第五回懇話会」平成17年1月21日

第五回テーマ「一等賞はどこだ？ベスト3の中で順位をつけて、ひとつの候補地に決めよう」では、前回までの懇話会で Check した点について、実務者 WS で課題の整理をし、書式を決め、提案各企業の皆さんに、工期、費用の概算資料を提出していただいたものを下敷きに、「総合的早期実現性」を精査した上で実務者 WS としての提案をしました。

その結果は、できる限り出された課題をクリアするように努めるという条件付で、子どもたちの未来のしあわせを第一に考え、できる限り早期実現を目指す、ということを最優先し、**NO5.小浜町「阿波海」の裏山の土地**

を一番とし、次点を堅神、次次点を赤崎とする提案がなされ、本提案を懇話会の総意とすることが合意されました。

(6) みんなにわかってもらおう「一般市民向け公開説明会」平成17年3月29日

心と身体ごと、この問題を共有していただくために、鳥羽小学校講堂を会場に、市民公開の説明会を行いました。鳥羽小学校建設に関わる今までの取り組みのいきさつと、懇話会でこれまで行ってきた話し合いの内容を追体験していただくことで、「なぜ小浜なのか」ということと「解決すべき今の課題」を共有し、忌憚のない意見交換を行いました。

3.付帯条件 (合意の条件として以下の通り)

- (1) 通学路の安全確保を100%に近づける

- (2) 地震、津波対策、避難経路の確保、有害物質など、こどもたちの安全安心度をできうる限り優先すること
- (3) 地元、小浜町との「観光影響対策」に配慮して計画を進める
- (4) 総合評価により決定したものであるため、それぞれの選定基準においては、他の候補地より低い評価もある。その部分については十分配慮願いたい。

市民で作成した各選定指標をできる限りクリアする。指標は以下の通り

- 1 安全に通学できる場所
- 2 広い運動場が取れて、こども達がのびのびできる場所
- 3 地域の人が見守りやすく、安心できる場所
- 4 地震・津波の心配のない場所
- 5 自然環境が豊かな場所
- 6 汚染や騒音がなく、環境の良い場所
- 7 将来的の学校統合も考えた上でふさわしい場所
- 8 地域の人とも関われる場所
- 9 日当たりの良い場所

上記、1,2,3 は最重要事項、4,5 は次に優先すべき事項、以下できれば考慮したい事項、です。

- (5) その他、課題が生じたときは、協働のスタンスで、情報公開と協議の場を誠意を持って設けること

【事業のプロセス】 「ライブ・レポート」

■ 第一回 スタートラインに立とう

～オリエンテーションと約束～

日 時 : 2004/9/3 (金) 19:00~21:00 場 所: 鳥羽市民文化会館

テーマ : 「スタートラインに立とう確認と共有のセッション」

レポート:

第一回は、スタートラインに立つ為のオリエンテーションと位置づけています。所定の目的は果たしました。まず、目的を共有してもらい、市、教育委員会にも**本懇話会で絞った案を実現させるように市長へさらに念押しをするという「約束」**をコミットしていただき、**文教民生委員会の議員の方も約束した責任を果たすと明言いただき**、座長と副座長も決まり、用地選定のための「前提条件」いわゆる市長の「**白紙撤回**」の意は、「**移転をしま**

す、ただし神鋼への移転は白紙撤回します」ということで、さらに、**現在小学校が立っている現敷地は、候補地からはずす**という合意に達しました。

ただそれは保護者のサイドで現敷地は鳥羽小用地としてもっともふさわしいという WS の結果が出ているのですが、建て替えは史跡との整合性から不可であるという結論が出ているのと、よしんば部分改修をしたところで、近い将来には取り壊すことになっているし、早期実現、計画の自由度の面からあまりにも制約が多すぎるため、やむを得ず合意した、ということです。

もともと PTA で用地 WS が始まったときに、まだ現敷地の取り扱いが、「まだ実現の可能性あり」という流動的なものであったこと、市が決断を示すことができなかったことに原因があります。ともあれスタートラインに立ちました。

■HP に寄せられた市民コメント

鳥羽市民

『はっきり言って、現在使用出来る学校はたくさんあります。市に資金も無いのに学校つくって 10 年.20 年たってどれだけの子供が鳥羽にいるのかも判らないし、今現在の小浜小学校もりっぱです。今必要なのは学校でなく医療、福祉、子育て支援、地震津波対策、観光、水産事業等でないでしょうか？有るものを使って、限られた資金を無駄にしないようじっくり考えてください。でないと鳥羽からみんな出て行きますよ。』

□ 第一回 実務者ワークショップ 平成 16 年 9 月 22 日



(写真は色わけ都市計画図に用地の特徴書き込んだ記録)

今日は午後一番から、鳥羽小学校用地選定懇話鳥羽市役所実務者 WS、鳥羽小学校にふさわしい用地を選定するとき、主語を教育委員会は、ではなく「鳥羽市は」と言えるように、まず、各担当課の実務者レベルで WS を行い、鳥羽市版の選定基準の足切り基準として最

低限クリアしなければならないものは何か(面積規模、造成、予算、法規、工期など)
鳥羽小学校と「まちづくりとの整合性」今どうなっているのかを、共有する。

何を考慮に入れなければならないか?(ふたつのポイントがある、鳥羽市として現敷地をどのように活用する計画があるか?もうひとつは、新敷地として上がっている候補地が鳥羽市のまちづくり、土地活用の計画上どのように関わりを持っているか?)をはっきりさせるために、ファシリテーショングラフィックで進行した。

教育委員会、まちづくり課、財政、企画、建設課(建築及び土木)、各実務担当者8名で行った。選定懇話会、第一回目の課題として、「鳥羽市は」という主語で答えられるように方向性を持つことによって、市民からの信頼を回復する必要があることを伝える。

懇話会の目的をひとことで言うと、

安全で安心な鳥羽小学校用地をできるだけ早期に決めたい。

合意された大前提:現敷地への建て替えは考えない。(直接関わった PTA、ボランティアでつくる鳥羽小委員会としては、断腸の思いで)

都市計画図(用途地域色分け)上にマジックで各候補地を書き込みながら、その特徴、問題点、検討すべき点を共有しながら、同時に鳥羽市各課の立場からの「ものさし」案のアイデア出しをしてゆく、ひとりでファシリとレコーダーをかねて、なおかつひとりひとりの発言のエッセンスをとらえて、どんどん書き込んでゆく。

面積、規模に関して、文部科学省の基準に従って、将来性を考えて十分な敷地面積が取れるように、5200坪取れることが望ましい。(最低基準ではない)、鳥羽、小浜、坂手まで将来的にひとつになっても対応できるように、そして校舎、体育館、所定のグラウンドが取れるように、将来的には25mプールがつくれる、広さ)。これがひとつの「ものさし」である。

次に安全安心適法、ということで、現法規の枠組みを守る原則。用途地域見直しを不要であることが原則。工業地域にかかる土地ははずすべきではないかという意見など。周囲環境が良好か、地震津波に安心できる高台(避難場所機能)、土砂災害の危険性は?(まだ未指定である、安全性を確保する擁壁、排水などで安全確保)、土地に有害物質の履歴のない場所、など。これはまず第一に大切な「ものさし」

土地にかかる経費予算、鳥羽市としてどれくらいまでと見るか。天井知らずなど論外、財政はきわめてきびしい。上物の建設費はどの土地でも大差ないと想定する。(現実には仮設の難易度などの問題があるが)、基準とする、土地取得と建設にかかれる用地として整備するための造成、擁壁、排水、進入路、調整地、などと、土地取得の予算、の目安を示す(鳥羽市の用地選定づくりのための概算)、これがまたある意味一番の「ものさし」である。

★「まちづくりとの整合性」において、各用地において、今のところ鳥羽市でまちづくりの上で別の形で活用するから小学校にするのはまずい土地、はない。

一丁目から五丁目、中心市街地活性化事業、まちづくり総合支援事業、まち交など。景観法に関してはまだ未定

現敷地及び校舎の活用については、各課の持っている情報をつきあわせた結果でも「未定」と言わざるを得ない。

■以下宿題

★まちづくりとの整合性については「別の機会」を設けて市民の意見を生かす参加の機会づくりをする、と言ってほしい、と「まちづくり課」に要請した。用地選定懇談会においては、あくまでも目的を新しい鳥羽小学校にふさわしい用地とは、ということに目的、議論を集約させたい。

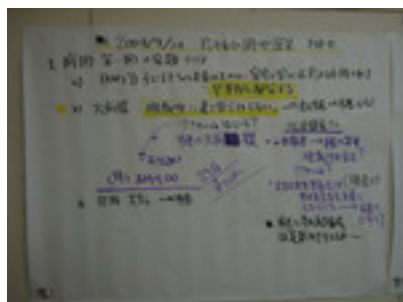
★土砂災害の危険性について、ハザードマップ、ともに準備段階、きちんと技術的に安全に考慮すればどの用地も可能である、という現在のところ、そういう見解である。

★そして各課への宿題として、土地取得と整備にかかる予算規模の目安を鳥羽市とし提示できるように調整する

★建設課で、造成、排水、進入路、調整地などにかかる概算必要経費を S1/2500 スケール程度で試算を試みて、遅くとも第三回の懇話会に間に合わせる。

★反省:広報担当にも来てもらえばよかった。本来は僕が書いているレポートなんて広報の仕事なんだけど。また広報鳥羽への掲載、ニュースターも鳥羽市の仕事だよと懇話会でも指摘があったはず。HP 掲載に関しても、鳥羽市から PonPon 経由でここが見られるように。PonPon は、もう対応しました。とんでもなくタイトなスケジュールでやっているんで、鳥羽市には早く対応してほしい、と日記には書いておこう)

□ 教育委員会と打ち合わせ WS 平成 16 年 9 月 24 日



★2004/9/28 追記 写真は打ち合わせ WS のファシリテーション G

13:30 から 15:15 まで、教育委員会で打ち合わせ WS、ファシリテーション G。月曜日 AM9:00 に、座長、教育委員会、PTA、僕とで市長のスタンスを確認に行くことになる。

懇話会の成立する大前提の確認をする。主語は「教育委員会は」ではなく「鳥羽市は」でなければならない。

- 1 鳥羽小学校の現敷地への建て替えはない。
- 2 鳥羽小学校の現校舎のリフォームはない。
- 3 懇話会での決定を取り入れてください
- 4 市長の考えている用地はどこですか？

9/29 の懇話会で鳥羽市としてのスタンスを話してください。

ともあれ、鳥羽市としての用地選定の絶対基準(大きく候補を絞ることのできるもの)の決断が早急に必要である。

- 1 面積、規模
- 2 予算
- 3 安全安心、適法、法規制
- 4 工期
- 5 交渉性

特に当事者の鳥羽小学校 PTA 役員にとっては、早期実現が悲願である。安全安心な鳥羽小学校用地を早急に決めたいという思いで焦られるようだ。

PTA の WS の成果を下敷きにして合意形成の speed up を図る必要がある。と同時に当事者以外の市民への説明責任も果たすために、しかるべき step を踏む、ショートカットすることに懇話会で合意が得られればいくつかの step を圧縮する。そのためには、鳥羽市としての絶対基準で、いくつかの候補地を納得のい理由でふるいにかけるために、鳥羽市としての共通見解としての絶対基準を決めなければならない。実務者レベルでは前の log のとおり始まっているが、もっと早く、というのが PTA の皆さんの思いである。

(以下追記 2004/9/28)

第一回の懇話会で合意された当懇話会の目的について、もっと絞り込む、あるいは優先順位を明確にして、「子どもたちの未来のために、早期に用地の選定をする」というもっとも大切なことからずれてはいけない、という話になる。

■目的

- 1 子どもたちの未来のために、しあわせのためにを第一に考えて、ふさわしい鳥羽小学校用地を選定する。
- 2 できうる限り、早期実現を目指しうる用地としたい。
- 3 鳥羽のこれからのまちづくりとの整合性を熟慮した上で用地を考える
- 4 市民、行政、企業、が信頼関係を深め、協働のスタンスや仕組みが鳥羽にいきづくようなプロセスをともに創ってゆく

この番号が優先順位の番号である。4 については、NPO の会のミッションを表現している。これは、本懇話会をすること自体が NPO の会のミッションに合致することを確認しているのである。参加者はこれを意識せずとも、自然にそのステップを踏んでいくはずである。よって、これは棚上げしてかっこつきの目的にしておいてかまわない。

3 については、「まちづくりの整合性」には二つの側面がある。ひとつは、現敷地及び現校舎を鳥羽のまちづくりにおいてどのように活用してゆくのか、という鳥羽のランドデザインとの整合性、もうひとつは、提案された各用地案において、鳥羽のまちづくり、土地活用のランドデザインと矛盾するところはないか、ということである。

現敷地、現校舎については、実務者レベルにおいて、ビジョンはまだ未定としかいいようがない、そして各用地案についても、ランドデザイン上整合性に矛盾はない、ということである。(実務者 WS の結果)

そして、その会議において、「まちづくり課」に、特に現敷地、校舎のまちづくりとの整合性の問題は本懇話会以外に、「協働の場」、「市民の声と行動を生かす」、本懇話会以外の別の機会を作ってほしいと要望を出している(実務者 WS の場において)。よって第二回の懇話会において、まちづくり課からの返答がもらえるはずである。そう信じている。

よって、本懇話会の目的は、1,2 を最優先に、絞り込んで議論する場である、ということになる。

□ 市長との懇談 平成 16 年 9 月 27 日



(写真は市長との懇談のミニ・ファシリテーション G)

AM9:00 市長室にて確認。教育委員会(教育長は不在)、村瀬 PTA 会長、大松座長、川村(ファシリ)。

以下について要望する。(以下、川村の聞き書きである。公式には鳥羽市から出された文書を確認してください。公式文書も合わせて手に入り次第公開します。川村聞き書き版と合わせてごらんください)

- 1.鳥羽小学校の現敷地への建て替えはありませんよね。
- 2.鳥羽小学校の現校舎の改修はありませんよね。
- 3.用地選定懇話会での決定を受け入れてください
- 4.市長の考えている用地はどこですか？

9/29 の懇話会に来てください。来ていただく事ができないのであれば 28 日の午後 5:00 までに回答ください。以下、ミニ・ファシリテーション G により記録した市長からの回答の要旨を示す。

「まず、皆さんに理解して置いてもらいたいことは、工場敷地内への移転の話をすすめたのは、早期実現ということで、良かれと思ってしたこととご理解いただきたい。当企業は鳥羽市の発展のために大切な、恩のある企業であることは皆さんもご理解いただいていると思っています。」

以下、しばらく、財政的に鳥羽市はきわめてきびしい、その状況を話す。
そして回答、

1.鳥羽小学校の現敷地への建て替えはありません。

4.に関して、わたしは用地に関しては、白紙です

2,3 に関して

a.教育委員会にまかせてあります

b.皆さんの主体性を尊重します。

c.わたしの考えは白紙です。

そして、懇話会の提案を尊重して受け止めます。どのように受け止めたかは、みんなが納得できるように説明責任を果たします。

29日はスケジュールが合わず残念ながら懇話会に出られません。

(川村の見解)

★懇話会と同時進行で、鳥羽市としての基準づくりをしているので、「予算」に関しても考慮した上で用地選定懇話会では議論をします。よって的確な情報にもとづいて、公の利益こどもたちの未来にコミットしてきちんとした道筋で議論する限り、懇話会の選定は十分に妥当なものになる、と考えます。そのためには、鳥羽市から懇話会へは関連するすべての情報を開示し、同時進行でタイムリーに検討結果を共有していく必要があります。

★現校舎の改修(リフォーム)はありませんよね?という問いに対しては、上記のように回答されました。(2,3 に関して、の a,b,c 参照、できる限り生のまま記録しておきます)

■ 第二回 候補地を理解して絞り込む

～現状認識と簡易評価による絞り込み～

日 時 : 2004/10/13 (水) 19:00～21:20 場 所: 鳥羽市民文化会館

テーマ： 「今どんなところが候補地に上がっているか？そのよいところとわるいところ
を理解して大きく絞り込んでみよう」

レポート:



(写真は懇話会 WS 風景、基本は扇型、ファシリテーション G、実践的旗揚げアンケートの説明中)

WS は PM7:00 からですが、僕は午後一番に文化会館入りして、A3 の白紙に 5 枚の KJ 法的シナリオとタイムテーブルをつくりながら、イメージトレーニングをしました。不器用なんで段取りと錬度を上げるしかないのです。出る可能性のある問題は 100%に近く、シミュレーションはできていたと思います。そして会場設営と簡単なリハ込みで PM4:00、教育委員会のスタッフとともに会場入りしたわけです。そして 5,6 時には PonPon メンバーもそろったわけです。川村がファシリ、NPO の会有志がサポートメンバー、教育委員会、そしてアドバイザー・コーディネーター、三重大の浅野先生。

■WS 第二回合意事項のまとめ

鳥羽小学校 PTA で開催した用地選定 WS のプロセスと成果を下敷きに議論を早める。本懇話会の目的は、主として 1,2 とする。すなわち、1.子どもたちの未来のために、しあわせのためにを第一に考えて、ふさわしい鳥羽小学校用地を選定する。2.できる限り、早期実現を目指しうる用地としたい。

目的の 3.まちづくりとの整合性に関しては、市のまちづくり課があらたに別の機会を設けるので本懇話会では主たる目的とはしない

目的の 4.協働の仕組みづくりは、企業ではなく NPO の会が本進行役を受託した理由、NPO としてのミッションを表現している。つまり本懇話会のプロセスを誠実に実現していけば自然と目的の実現に近づくので、参加者はとりあえず意識する必要はない。

市長からの回答を受け、1.現敷地での建て替えはない(市長確約)2.現校舎のリフォームはない(市長は明言をさけた)という方針で、本懇話会としては、用地案として現敷地は候補からはずす。ただ、市長は用地に関しては「現敷地への建て替えはない、用地に関しては白紙です、教育委員会、懇話会にまかせます」ということなので、まず懇話会としての議論を深め、早期に結論を出すことを最優先にする、と合意。

■大きく絞り込まれた候補地は5箇所

現敷地を除いて、11箇所の候補地の中から、今回のセッションを通して大きく五つの候補地に絞り込まれた。(候補地は、PTAからの提案、自治会などからの提案、広報鳥羽で広く公募された期間内に所定の申し込みを行った用地を網羅したものです。)

以下結果は

NO2.堅神から屋内町にかけての土地

NO3.赤崎神社の裏山の土地

NO4.堅神公民館の裏山の土地

NO5.小浜町「阿波海」の裏山の土地

NO7.スカイライン入り口の土地

の五箇所となりました。PTAのWSで候補にのこった候補地のうちの五つと懇話会メンバーにくわしい資料を事前配布した上で葉書にて投票したベスト5と市役所内実務者WSのプロセスをふまえて、鳥羽市としての選定基準を指標化して評価したベスト5が、一致しかつ、本日の各用地の課題を理解するセッションの後、最後に投票した結果のベスト5も一致しました。よって、十分に「公的に妥当性がある」と参加メンバー全員一致で、11の候補地のなかで、上記五箇所に絞って今後の議論をすすめてゆくということで合意しました。

■HPに寄せられた市民コメント

親の立場から。

『鳥羽小学校建設にあたり情報があまり入ってきません(悲)いろいろな面で、本町内にあるべきものだと考えます。核家族といわれる世の中で子供が人と触れあう時間が少ないのです。子育てをしやすい環境ではありません。祖父母、地域や近所の人々、周りのたくさんの方と触れ合える町内の通学路を通っていける場所というのが、大切なんじゃないでしょうか。「おはよう」「おかえり」の声があるのとないのとでは違うと思います。今も町内にあるので、予算がないとか、早期にてっとりばやい場所という前に子供のことを一番に考えてもらいたいと思います。長い目で見て津波、地震、地域の避難場所も考慮し、本町内の建設を希望します。』

#

sukeru 川村の回答

『コメントありがとうございます。毎日のように半徹夜しつつ、ブログに情報をしたためていて、やっとご意見をいただきました。以下、最新情報です。』

2004/10/27(水) PM 7:00 鳥羽市民文化会館にて

第三回の懇話会が開催されます。

懇話会は、誰でもオブザーブ見学が可能です。公開されております。

ぜひ、見に来てください。鳥羽小 PTA 役員の皆さんを中心として懇話会の皆さんは、ご心配されるような各問題点を、真剣に議論を積み重ねています。子どもたちのことを第一に考えております。ご安心ください。決して「てっとりばやい」というような乱雑な話はしておりません。なぜ早さが必要かといえば、第一に現小学校の老朽化による危険性、そして、国などからの交付金等が急速に先細りしているという「国全体として教育関係費ですらも削られつつある財政的な危機状態」という問題があるからです。ご存知のように日本は「子どもたちの世代への借金」で社会資本を整備しているという事情があります。膨大な予算を消費してしまう、ということは、子どもたちに、それだけの「借金」を生まれながらに背負わせてしまう、ということなのです。そのきわめて「制限された」なかで、子どもたちのために、「あれもこれも」はしてあげられないけれど、せめて「これだけは」してあげたいことが出来る鳥羽小学校にしようと、足りない知恵と時間を絞って取り組んでいることをご理解いただければ、うれしいです。
現在、昨晚もほとんど徹夜で、懇話会の組み立てをしております。』

■ 第三回 公開ヒヤリング

～公開ヒヤリングで理解を深める～

日時： 2004/10/27 (水) 19:00～21:20 場所： 鳥羽市民文化会館
テーマ： 「しぼられた候補地のよいところとわるいところをさらにくわしく理解しよう、
そしてもっと絞り込んでみよう STEP1」

レポート:



(写真は WS、企業の方からの説明、提案、公開ヒアリングの風景)

鳥羽小学校用地選定懇話会第三回が行われました。今回は、絞られた五つの候補地の公開ヒアリングです。教育長の挨拶、座長からの、その昔、鳥羽小学校が建てられるときのエピソードを紹介され、浅野先生からは、公開ヒアリングという機会を得られたことは「協働」のまちづくりにとって意義が大きい、なかなかこんな機会はつukれないものだ、企業の皆さんにも感謝します、と述べました。

NO2.堅神から屋内町にかけての土地

NO3.赤崎神社の裏山の土地

NO4.堅神公民館の裏山の土地

NO5.小浜町「阿波海」の裏山の土地

NO7.スカイライン入り口の土地

堅神のふたつに関しては市からの説明、(地権者が複数であり代表者など未定ため)その他三候補に関しては、**提案企業**担当者からのくわしい説明と資料提示がありました。(同じ項目について時間も同等に)出来る限り公平に、**リンカーンフォーラム(一問一答形式)を参考に進行のルールをつくり**(発言制限時間)、提案者からの、用地の説明と、「どうしてもここを確認したい」という質問を受付け、可能な範囲で回答、あるいは宿題としました。その場合、出来る限り各選定基準に関する同じ質問を三者と市にすることとしました。が、やはり現実には、この土地についてこれを聞きたい、という質問が多かったです。出来る限り委員の皆さんの質問を効率よく伝えるために、考え **TIME** をとってポストイットアンケートとして休憩時間にスタッフでカテゴリー分けしました。

「これだけは聞きたいポストイットアンケート質問」をして、三社の方にそれぞれ出来る範囲で応えていただきました。当然市がこたえるべきものもあり、宿題とするものもありました。制限時間を一杯に使っていただきました。

- 1.費用(土地取得と造成など)
- 2.期間(造成工事に要する期間)
- 3.用地買収(地権者は何人?、誰と交渉するの?)
- 4.通学路(二つほしい?、安全性、高さ、状況などは?)
- 5.安全性(地震、津波、風は?斜面は?)
- 6.デメリットは?

最後のデメリットを企業の方にアピールしてもらうのは、進行役の判断で却下させていただくことを提案し合意されました。公開ヒアリングにご協力いただいたお三方への誠意の表現として**礼を失する**であろうという判断です。提示された生の情報を精査しそのデメリットは何か?は懇話会が議論すべきことです。

その上で **PTA** の選定基準をもとに、ものさしを合意し、評価点数つけの手法を示し説明しました。次回は、今までの総復習をして、具体的に評価シートを使って優先順位をつけてゆきます。

その他、

第二回の懇話会のレポートにいただいた HP コメントを紹介し、その気持ちを伝えました。市では懇話会での議論の速報を、このブログで公開している、ということを周知するために TOP からのリンクを工夫してくれます。また、**広報とばへの掲載**、ニュースレターの発行も急ぐと約束しました。PTA からは、当然、新潟の地震をかんがみて、早期の実現と、建設完成の期日を以前市が日時を示して約束したにもかかわらず結果として遅れるということになっていることを改めて指摘し、早くみんなですすめましょう、と締めくくりました。

■用地選定のものさし(選定基準)は

大目的は、

- 1.子どもたちの未来のために、しあわせのためにを第一に考えて、ふさわしい鳥羽小学校用地を選定する。
- 2.できうる限り、早期実現を目指しうる用地としたい。

鳥羽小学校用地選定懇話会で合意された、「鳥羽小学校用地としてのふさわしさの評価基準」は以下のとおり。

■PTA の WS でのものさし、を懇話会で修正したもの

- 1.安全に通学できる場所
- 2.広い運動場が取れて、こども達がのびのびできる場所
- 3.地域の人が見守りやすく、安心できる場所
- 4.地震・津波の心配のない場所
- 5.自然環境が豊かな場所
- 6.(用地が早く手に入る)→欠番:鳥羽市の基準で評価
- 7.汚染や騒音がなく、環境の良い場所
- 8.将来的の学校統合も考えた上でふさわしい場所(ただし鳥羽市の方針は鳥羽小学校の立地は、坂手、小浜、鳥羽の将来の統合の可能性を考慮して用地候補はすべてその校区内にしている)
- 9.地域の人とも関われる場所
- 10 日当たりの良い場所

1,2,3 は絶対条件、4,5、までははずしてほしくない条件、です。つまり市民(PTA)の指標

(ものさし)には、議論によって三段階の重要度のランクがついているわけです。また PTA での WS は、僕がファシリテーターとしてコーディネートしましたが、きちんとした協働型会議の原則にのっとり、現状認識、KJ 法ビジョン、ノミナルプロセスによるものさしづくりとランク付け、評価、をきっちりやって合意形成を練り上げたものです。

■鳥羽市としてのものさし(用地評価基準)

鳥羽市役所内実務者 WS によって練り上げた評価基準は以下のとおり

- 1.費用面(土地造成、取得)
- 2.(地権者、提案者との)交渉性
- 3.期間(土地造成、整備、申請等手続き)
- 4.安全・安心-1 通学路
- 5.安全・安心-2 地震・津波
- 6.安全・安心-3 (地域の人が)見守りやすいか

また、「法規適合性」「面積がとれるか」については、この五つの候補地に絞られた時点ですべてクリアしているので、はずしてあります。(同等である)

★以上の評価基準で次回懇話会で具体的な「評価のそうまとめ」をやります。

□ 第二回実務者ワークショップ 平成 16 年 11 月 12 日

□11 月 11 日 (WS 前日)

明日、鳥羽市役所内実務者対象のミニ WS を昼から行う予定。

□目的

今までの懇話会での議論を共有し、行政手続として「問題点」は生じないか、候補地 5 件について意見だしをし、その解決策を宿題とします。

□鳥羽市役所実務者 WS の基本スタンス

鳥羽小学校にふさわしい用地を選定するにあたって主語を「教育委員会は」ではなく「鳥羽市は」とする。

参加予定は、(多分)教育委員会、建設課(土木、建設)、企画、財政、まちづくり課、(広報はどうだろうか?)

□進行

- 1.あいさつ、基本スタンス確認、目的確認
- 2.五つの候補地での懸案事項(第三回懇話会内容から)の共有
- 3.市民に提示している H19.1 月完成を可能にする方法は?
- 4.解決策及び宿題

□鳥羽市としてのものさし

- 1.費用
- 2.期間
- 3.交渉性
- 4.安全安心

通学路

地震、津波(土壌の履歴も含む)

地域の人が見守りやすい

□鳥羽小学校実務者 WS 11/12 開く

午後に実務者 WS、財政課とまちづくり課などが欠席。忙しいのはわかるけれど、日程調整した上で、手間ひまかけて段取りをしているのである。わかってほしい。はがゆい。

■ 第四回 さらに候補地を絞ろう

～ノミナルプロセスをベースにして精度を上げた評価と再絞込み～

日時： 2004/11/18 (木) 19:00～21:20 場所： 鳥羽市民文化会館

テーマ： 「しぼられた候補地のよいところとわるいところを総復習してから、ひとつの候補地に決めてみよう」

レポート:



(写真は市民のものさしで評価、投票をまとめた表)

速報。昨日、懇話会第四回を行いました。

今回のセッションは、委員の方からの事前の要望もあり、**究極の目標設定**を持って臨みました。

前回の振り返りに続いて、いくつかの宿題に対する回答、そして、市役所実務者 WS の成果(2回)で、実務者としての立場から用地のふさわしさを指標化したものを示し、各用地の特徴、問題点と利点をシビアに情報公開しました。コストの指標を出すのがむずかしくかなり突っ込んだ議論が白熱、また工期も、想定したものを各候補地ごとに示しましたので、さまざまな意見が出ました。やはり早期実現へと、特に鳥羽小学校に直接子どもを通わせている方たちと、それ以外の、まちのさまざまな立場の方たちとは、当然ながら微妙に異なる価値観を持っているのです。それが早期実現への切実さの濃淡、となって現れているように思いました。

そして、前回の最後に説明した、市民による鳥羽小学校用地としての「ふさわしさ」のランク付けをする投票を全員で行いました。

以下の「ものさし」ごとにベスト3に投票しました。

- 1.安全に通学できる場所
- 2.広い運動場が取れて、子ども達がのびのびできる場所
- 3.地域の人が見守りやすく、安心できる場所
- 4.地震・津波の心配のない場所
- 5.自然環境が豊かな場所
- 6.汚染や騒音がなく、環境の良い場所
- 7.将来的の学校統合も考えた上でふさわしい場所
- 8.地域の人とも関われる場所
- 9.日当たりの良い場所
- 10.その他

上記、1,2,3は最重要事項、4,5は次に優先すべき事項、以下できれば考慮したい事項、です。それぞれに重要度の係数をかけて、「点数化」しました。

以上、全員参加で行った投票の成果と、市役所実務者 WS で、実務指標で評価した成果とは、「ベストの3つ」が突出していて、他の二つは極端に点数が低く、しかもベスト3は、ほぼ伯仲している、という結果になりました。

「その他」の指標の意味は以下

子どもたちの未来のために、今までの「ものさし」指標では表現しきれない思い、雰囲気、たとえば「海が見える」や「鳥羽市の歴史伝統を学べる」などの「その他」の独自基準で見た場合の順位をつけて評価して、いわば「ボーナスポイント」として設定してあり

ます。特別に思いいれを表現したい方は使ってください。ただし、どのような基準で評価したのか、明記してください。

「その他の指標」で印象に残ったのは、「学区の中心にある度」「海が見える度」「校歌がそのまま使える度」などです。鳥羽小学校校歌には「波しずかなる錦浦」という詞があります。この思いは鳥羽小学校の歴史、伝統、こどもたちの未来へまで伝えたいものを象徴していると、暖かい気持ちになりました。

さて、結果です。

どのように決めるのか、まず下位の二つは残念ながら候補地からはずすということで全員一致で合意しました。

続いて、ベスト 1 を決めるには、三つの候補地のふさわしさは「伯仲している」ということで、今回の最終合意事項は「上位三つの候補地」を選出した、ということとなりました。いわば、この三候補地がプレーオフに進出した、ということです。そして、提案企業の皆さんとのやりとりで精度を上げた予算、工期、工法、行政手続等「総合的早期実現性」を明らかにした上で、市民としても「学区」とばのこどもたちのための離島までも含めたビジョンも考え、ベスト 3 の中からどれが一番「ふさわしい」のか、次回の懇話会でやろう、ということになりました。

以下の三つの候補地が、ふさわしさの度合いで伯仲している「ベスト 3」です。

NO3.赤崎神社の裏山の土地

NO4.堅神公民館の裏山の土地

NO5.小浜町「阿波海」の裏山の土地

■HP に寄せられた市民コメント

来年新 1 年生の親より

『ご苦労様です。前のコメントから、早速、鳥羽市の HP のリンクや広報とばへの掲載ありがとうございます。昨日の女兒殺害事件等みてますと、田舎や都会など関係なくおこる事件に不安を隠せません。地域全体で子どもを守っていくという点でも、小学校建設の場所はあらためて、重要になってくると感じております。鳥羽の中心であるほん町内に位置し、安心、安全（ものさしになってますが）病院、薬局が近くにある場所なども必要かと思えます。なにせ、色んな意味で最高にかっこいい、でえーんと鳥羽市本町内で、見下ろし、構えている鳥羽小学校になってほしいです。』

□懇話会の途中経過が広報とばに掲載 平成 16 年 12 月 7 日

本当は以下にあるような文章をすべて掲載していただくように強く交渉しましたが、すべて掲載することは、スペースの関係で無理でした。コーディネーターの僕としては、追い詰められたぎりぎりのペースでデリケートな、全国でも例のない「協働型会議」をやっているわけで、薄氷を踏む思いであるのです。時間がないために全市民対象のセッションを組めないという「協働型会議」の成立そのものに関わる重大なハンデを負いながらの運営なので、市の広報による情報公開は「生命線」と言えるのです。懇話会の熱心なメンバーの責任ある議論を生かすためにも、「市」としての情報公開の徹底は必要不可欠の最優先事項であることを広報担当には認識していただきたいと思います。

■市民と協働で鳥羽小学校建設用地を選定しています

□鳥羽小にふさわしい建設用地とは？

鳥羽小学校建設用地選定懇話会では、PTA、ボランティアで創る鳥羽小建設実行委員会、小学校 OB 代表、自治会、婦人会、など市民の皆さんが委員となって、子どもたちの未来のしあわせを第一に考え、できる限り早期実現を目指して、ふさわしい鳥羽小学校建設用地を選定するために、NPOが進行役となり市民と協働で創り上げる会議=WS（ワークショップ）形式で進めています。

鳥羽小学校 PTA の皆さんの「ふさわしい用地をえらぶ物差しづくり」のWSをもとに、公募期間に用地提供の申し出や提案があった 11 の土地（現敷地を除く、現校舎のリフォームを除く）を対象に議論を深めています。

□1.スタートラインに立とう

第一回テーマ「スタートラインに立とう確認と共有のセッション」では、ボランティアで創る鳥羽小建設委員会の頃から、今までのいきさつを振り返り、目的を共有し、ここで議論されたことが正式に最優先で取り上げられると、約束をしました。

□2.候補地を理解してしぼりこむ

第二回テーマ「今、どこが候補地にあがっているか、そのよいところと悪いところを理解して、大きくしぼりこんでみよう」では、鳥羽市としての選定基準、費用、期間、交渉性、地震津波、土壌などの安全性、合法性などと、市民としての 10 の基準、(安全に通学できる、広くてのびのびできる、地域の人が見守りやすいなど)に照らし合わせて大きく五つの候補地に絞り込みました。

□3.公開ヒヤリングで理解を深める

第三回テーマ「絞られた候補地のよいところとわるいところをさらにくわしく理解しよう、そしてもっと絞り込んでみよう STEP1」では、提案をいただいた企業の方と公開ヒヤリングを行い、具体的な用地の姿や通学路などをイメージして質疑を繰り返し理解を深めていきました。

□4.さらに候補地を絞ろう

第四回テーマ「しぼられた候補地のよいところとわるいところを総復習してから、ひとつの候補地に決めてみよう」で、市役所内実務者の WS の成果を参考にしながら、具体的に、ルールを決めた上で、市民でつくった指標をもとに、順位をつけました。結果は、以下の三つの候補地が伯仲しているため、ベスト 1 の決定はさらに精査して次回に検討することとなりました。

NO3.赤崎神社の裏山の土地

NO4.堅神公民館の裏山の土地

NO5.小浜町「阿波海」の裏山の土地

会議のライブレポートは鳥羽市の HP から閲覧できます。会議はどなたでも見学ができます。問い合わせは教育委員会(TEL0599-25-1262)まで。

上記のレポートで**一番大切なことが、広報とばでは省略**されてしまっています。広報とばに掲載していただくように僕が上記の文章をつくりました。時間の制約等で最終 Check は市にゆだねざるを得ませんでした。パートナーとして動いていただいている教育委員会は僕の意図は十分に伝わっているのですが、広報のスペースを特別にさいてもらうためには十分な権限を持たされていないそうです。精一杯やっていると聞いています。もちろん広報の方も精一杯やっているとわかっています。ただどうしてもなく仕組み上のことが壁になっているのです。

一番大切なことは、以下

□1.スタートラインに立とう

第一回テーマ「スタートラインに立とう確認と共有のセッション」では、ボランティアで創る鳥羽小建設委員会の頃から、今までのいきさつを振り返り、目的を共有し、ここで議論されたことが正式に最優先で取り上げられると、約束をしました。

本懇話会が、協働の場として、正式に鳥羽市から承認されていること。そして本懇話会の成果が最優先で取り上げられるという「約束」がされていること、それを広くしっけていただくと同時にその約束を「市」としてしっかり認識していることも公開することこそ、一番大切なことなのです。

次に大切なこと、これは、教育委員会を通じて強く、これだけは抜いてもらっては困ると言いましたので、広報とばにも掲載されています。(一番目に大切な約束のことは、ここまで文章を短く編集されるとは思ってもみなかったため、かつ、こんな大切なことを、広報の方も懇話会をオブザーブされながら省略してしまうとは思っても見なかったため、結果として略されてしまいました)

鳥羽小学校 PTA の皆さんの「ふさわしい用地をえらぶ物差しづくり」のWSをもとに、公募期間に用地提供の申し出や提案があった 11 の土地（**現敷地を除く、現校舎のリフォームを除く**）を対象に議論を深めています。

これは懇話会の議論の大前提です。PTA の皆さんからの提案をベースに議論をします。

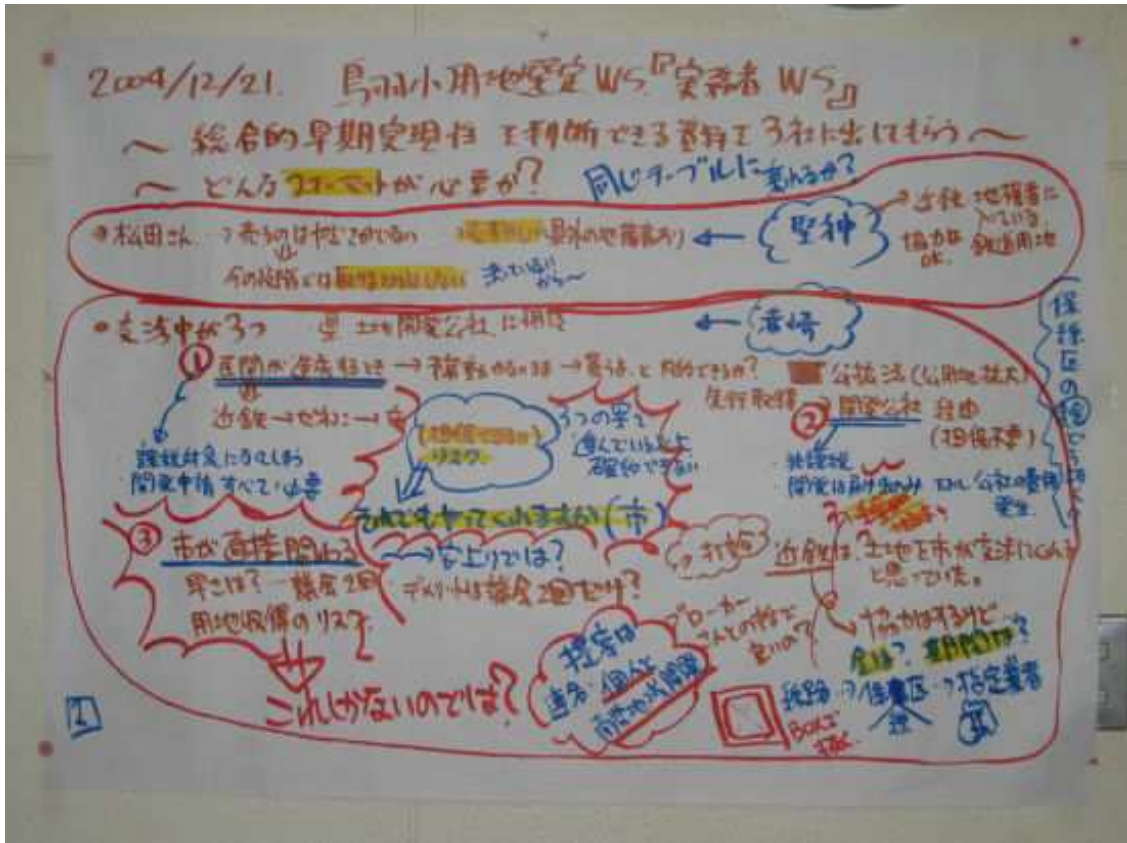
それは、現敷地は、**現校舎をすべて取り壊して建て替えができないのならば、計画の自由度、本来のこどもたちの未来につながる良好な教育環境を実現するにはあまりにも制約が多いので、これはあきらめる。**という断腸の思いを前提としています。これは県の史跡との関係で、**取り壊して建て替えることは原則として不可能**であるからです。そして現校舎をこわさずに残し、これをリフォームすることはありえない、ということ議論の出発点とすることで合意しました。いくら時間がかかってもいいというわけではないのです。**出来る限りの早期実現を目指すという観点からもリフォームは非現実的だ**ということで認識が一致しました。

そして**現校舎から小学校が移転した後、残った校舎をどうするのかは、まちづくり課などが別の場を設けていただく**ということで、本懇話会の議論の範疇からはずすことで合意したのです。

以上大切なことの二つ、は、正式な市民参加の場所で合意された以上は、市の仕組み、意思決定のあり方がどうなっていくと、「生活者の視点からは」鳥羽市が市民に約束したことだと認識されていることをここに明記しておきます。

□ 第三回実務者ワークショップ 平成 16 年 12 月 21 日

議題は、「宿題」の整理と各課への割り振りさらに、当該企業にどのような資料を出してもらうのか、その共通フォーマットをつくる。(以下ファシリテーション G)



□第五回懇話会の準備を詰める 平成 17 年 1 月 20 日



(写真は最後まで赤崎の特徴のところが埋まらない、三候補地の比較表)

朝から伊勢の市民活動センターの、PonPon ブースで、「一等賞を決めよう」セッションの手法を創る、シュミレーションをする。ひとり KJ 法。協働の技術、実務としてのワーク

ショップを企画するとき、僕は民主主義の原理、原点というものについて考えることが多くなった。ワークショップは、言わば、直接民主主義を実現する手段の一つともいえる、システマティックでありながら、極めて人間臭い「場」であり「座」なのだと思う。ハンナ・アーレントは、民主主義による政策決定に関与することそのものが人間の高貴なる使命であってよろこびとなる、というような趣旨(記憶なので)の思想を展開していたと思う。理想主義的に過ぎるのかもしれない。

異なった価値観、時に相容れない価値観、グループが、「伝統と歴史、国柄」が壊れかけたこの国で、共存、共立してゆくためには、「民主主義」の限界を設定する必要がある。ある本から読み取った。それは「単純多数決」が民主主義の本質だ、とすることへのアンチテーゼでもある。僕たちはワークショップを展開するとき、ときに、少数者の意見こそが正鵠をついていて、そのひとことで風が変わるように「合意」への道が開かれるようなことを経験することがある。異なった意見のぶつかりあい、の中からは、ほんとうの合意を練り上げることはできない。

手法のたたき台を手に、事務局のもりもとさんのオフィスへ。対話することで Check する、軽く段取りの打ち合わせ、そして鳥羽市教育委員会へ。資料作成、座長とも話す。その場は市長の出馬とりやめの話でやや騒然。ひとつひとつ詰めてゆく。実務者 WS、提案企業からの提出資料をまとめたもの、を Check させていただく。技術的には正確だが、あるいは厳密ではあるが、これでは市民には「伝わらない」と正直に話す。図表化のたたき台もできている。打ち合わせ、何度も何度も対話しながら、表現を「厳密さ」からわかりやすさ、ほんとうにまちのひとが求めている、知りたいことは何かということを粘り強く話してゆく、たとえば、工期、よりも「開校が可能なのはいつか」ということ。精密な図面をみんなの手元に渡して仕様を細かく説明することよりも、マンガのように土地の断面を大きく書いて、土地をつくるのに、どれだけ土を動かすかをまずわかってもらうこと。土の量で工事の大変さを示すことが多分一番理解しやすい。懇話会のひとたち、まちのひと、は技術者ではないのだ。正確に説明すること=わかってもらえること、だと勘違いしてしまうのは、技術者の陥りやすい陥穽である。

赤崎の、さまざまな「困難さ」が重くのしかかる。どれだけ詰めても、あるいは詰めれば詰めるほど、「困難さ」は「不可能さ」と表現せざるを得ない。公平な目で見ても、どう考えても、これは哀しいけれども、くやしいけれども、鳥羽という等身大の「まちの器」にクリアできるレベルの話ではない。せめて5年、いや二年前なら....

だんだんと押し問答になってゆく。やはり提案された方への配慮、市民への配慮、一縷の可能性もないのか、と言われることへのつらさ。僕は、赤崎の特徴のところに「不可能」

と書くべきだと告げる。沈黙、課長も体調が悪いところをますますつらそうになる。18日に実務者、主に建設課とそれから座長 PTA 役員とミニ WS 風会議で資料を検討したときからわかっていたことである。

「リスクが高い」と書こうかという提案をする。どうどう巡りになる、再び工程をなぞりここでこうなればこうなる、ここにこれだけのリスクがある、と話はもどってくる。時間もなく、「評価をするための設計」にかかる予算もないことはわかっている。そして行政の仕組みとして、「決まった」ものに対してしか予算はつけられないのだ。概算から推定する、しかも実務者が一通り数値を当たって算出したことと経験から導き出した結論だ。依然として赤崎の特徴のところだけが埋まらないまま押し問答だ。課長はその件で相談に出かけた。もう 19:00 を回ろうとしている。重い口をあける H 氏、「浅野先生の意見を」と言う。僕は結論は同じだと思ったけれど、うなづいた。後は明日、朝から詰めて仕上げよう。

夜、浅野先生との電話がやっとながる。結論はやはり、かけねなし本音を、逃げずに取り繕わずに告げることが大切、とのこと。そして事務局からの提案、という形で最終的には「信任するか否か」を問いかけて投票をする、という究極の方法しかないのだ。

深夜、事項書案を見直す、WS としては自由度が少ないのだが大切なのは「決める」ことだ。教育委員会の皆さんの行政マンとして、すごく抵抗のあることだろうけれど、これで説得することにする。深夜 3:00 を過ぎて床につくが眠れない。



21 日、朝から教育委員会に詰める。浅野先生の結論を告げると、みんなは、腹をくくってくれた様子だ。最後まであいていた赤崎の特徴のところに、「リスクがある」ということを、とうとう書いてくれた。中途半端な説明では絶対にみんなには伝わらないのだ。課長と、説明のためのシュミレーションをする。緊張が高まっていて、なんだか可哀想なくらいだ。そして事項書ができる。ひとりでシナリオメイキングに入る。すべてシュミレーションし、自分だけの台本をつくるのだ。教育長も目を丸くするくらいまひまがかかるのだ。僕には才能なんてないからただ愚直に詰めるだけなのだ。やがて 16:00 を過ぎ、会場である鳥羽市民文化会館へ向かう。やるべきことはすべてやった。議論が紛糾したときのシュミレーションも、いざというときのセキュリティ対策も話し合った。あとはステージに立つまでだ。悔いはない。これが朗読のステージだったら、楽しいだろうなあ、と思う。PonPon スタッフも集まってくる。浅野先生も早めに来てくれた。別室で念入りにすりあわせをして、開幕だ。演出としてこどもたちのしあわせを意識を向けてもらうために BGM は

こども向きを用意している。BGM を止め、スズケンくんが、鳥羽小学校の校歌をかけて、教育長の挨拶から、幕が上がった。

■ 第五回 ひとつの候補地に決めよう

～意思決定のセッション～

日 時 : 2005/01/21 (金) 19:00～21:20 場 所: 鳥羽市民文化会館

テーマ : 「一等賞はどこだ？」

ベスト3の中で順位をつけて、ひとつの候補地に決めよう

レポート:



(写真は、鳥羽小のこどもたちが、小学校建設への想いをこめた「劇」をつくった、その切ない内容、をうったえる、PTA 会長)

鳥羽小学校建設用地選定懇話会の目的は、

■ こどもたちの未来、鳥羽の未来のしあわせのためにふさわしい鳥羽小学校用地を選定しよう

そして今回、第五回のテーマは

■ 「一等賞はどこだ？ベスト3の中で順位をつけて、ひとつの候補地に決めよう」

苦しい選択と決断を、懇話会の総意として行いました。断腸の思いで市は、教育委員会は、限られた状況の中、リアルに精査しました。そして提案企業の皆さんの真摯な資料を実務者 WS で詰めに詰めた結果の掛け値なし、ありのまま、ほんとうのこと、を事務局からの提案、という形で懇話会に預け、最後は当該案の「信任投票」を行いました。

懇話会の総意としての承認の大前提は、鳥羽小学校建設用地として、現敷地への建て替えはありえない。また現校舎をリフォームすることもありえない。そして約束通り、本懇話会の結論を市として受け入れていただく、ということです。

鳥羽小学校建設用地としてふさわしいのは、

一等賞、小浜

(老朽化している現校舎で、いわば今もずっと危険にさらされ続けているこどもたちのことを第一に考えて総合的早期実現性ピカイチ、金額がお値打ちでピカイチ。地権者は東急という企業一社であり、当該企業のしかるべき責任ある地位の方が窓口である。なおかつほぼ造成も済んでいる。ただしプライスレスな価値=小学校は本町のまちの要であってほしい等、は、劣る。解決すべき問題は通学路のさらなる安全性の確保等)

二位 堅神

(中庸、市民ポイントも実務者ポイントも中庸、ピカイチにこれがいい、ということがない。金額も小浜ほどお値打ちでもないし、用地取得の交渉も多く、地権者と直接ひとりひとり当たらねばならず一部の地権者との交渉がむずかしく長引く可能性がある、赤碕ほど、市民ポイントも高くなくて、小浜ほど早期にはできず、金額も中庸である)

三位 赤碕

(鳥羽市のまちづくりとの整合性高く市民の指標としてはピカイチで大変良い敷地ではあるが、早期実現はむずかしく途中で頓挫するリスクがあまりにも大きく、鳥羽市の危機的な財政状況、工期、諸条件の中ではリスクが高すぎて不可能。造成工事で排出される土量が実に概算で 22 万 m³、で、他の二つと比べると桁違いに大変な工事である。小浜と比べて倍以上の金額がかかってしまう。しかも工期及び費用も提案者による概算からの推定値を大幅にオーバーする可能性が極めて高いと、実務者 WS の精査の中で深刻な懸念が打ち出された。さらに提案者は個人と不動産企業の連名であり、近鉄は「協力はする」というスタンスである。提案者(個人)の提出した費用と工期は、実務者 WS での技術的な検討を加えた結果、懸念が示された。実務者の概算は提案者よりもはるかに費用もかかり工期も長く必要との結果である。つまり市が最初に土地を取得して造成をかけるという通常の事業方式で行った場合、費用と工期は実現不可能な領域になる。また、変則的に、提案者個人が造成を完了した時点で買上げるという方式は、当該個人を、その提案者が提出した費用、期間の案も含めて 100%信頼するという仮定が前提になっており、不測の事態があった場合

は取り返しがつかない。これは公共事業としては極めて「責任を果たしがたい」事業の形である。造成工事を行うと提案しているのは、あくまでも個人であり、企業ではないのである)

背景として、小泉首相の打ち出した三位一体の改革の影響が大きい。小学校建設にかかる助成金、補助金や交付金等、先細りしてゆく道筋が見えている。平成18年度以降はどのようなきびしい状況になるか、不透明である、という状況があることをシビアにかみ締めなければならない。そして井村現市長の不出馬の決定。いままでの市の、鳥羽小学校建設に関する、二転三転した状況をかんがみて、現市長の任期の内に政策会議にかけて、事業決定の道筋をたてなければならない。すでにまったく余裕などなく、僕=ファシリの実感として、「災害復旧」にも匹敵する緊急事態なのです。(市民と行政、企業の間立った中間支援のセクターの実務者としての、あくまでも個人の実感です)

投票は、23人中、20人がやむを得ず信任、という結果でした。また、委員の皆さんから、「やむを得ずとは言え、みんなで決断したんだから、町へ帰って、じつはおれは反対だったんだけどなー、なんてことは言わないようにしましょうよ」との言葉をいただきました。ただし、小浜は通学路の安全確保など付帯する諸条件の課題がある、こどもたちのためにさまざまな懸念を100%に近いくらい解決してほしい、という条件付の承認でした。

一番大切なこと、それはこどもたちの安全と安心のために、一刻も早く鳥羽小学校を建てること、その思いをすべての「ものさし」よりももっと切実なものと考え、皆さんは、懇話会の総意として、一位を小浜とする、という事務局提案を断腸の思いで承認したのです。

そしてもうひとつ、大切なこと。それは懇話会に関わってくれた人ならば実感できることと想っていますが、結果よりもむしろそのプロセスをとともにした、ということこそが「尊い」のです。僕たちはこんどこそ胸を張って、こどもたちに伝えよう。「いままでなんどもウソをつけてゴメンね。今度こそはほんとうにほんとうに、新しい鳥羽小学校を建ててみせるからね」

■ 懇話会の成果を広く皆さんにわかってもらう市民公開のフォーラムを開催する予定です。(本懇話会も市民に公開され誰でもオブザーブ可能でした)その際、PTAの皆さんの保護者の方への説明会もかねて、PTA、懇話会、市、NPOの会の協働で開催したいと企画中です。また本ブログにコメントいただいた大切な意見も、すべて懇話会で話しています。ひとつひとつコメントする余裕がありませんが、皆さんのご意見は大切にします。そしてひとつひとつのご心配を少しでも解消できるように努めます。こどもたちのために、あなたの力を貸してください。

■HPに寄せられた市民コメント

新1年生の親より

『納得のいかない結果に不満だらけです。早期実現、低価格だけで選ぶのはこれからの鳥羽小に未来はあるのでしょうか。これから先、何十年先に通学させる子供達を考えると早期実現を理由にするのは正解でしょうか。もっと大切な事があります。プライスレスな価値が一番でしょう。地域性を考えると1番にする場所ではないはずです。切実な親の意見をする場もなく取り入れてもらえる場もなく納得がいかないです。親たちの意見する場、今までの経緯が納得する話、不満、不安が少しでもなくなる話し合いの場が必要です。』

□議員全員協議会の打ち合わせ 平成 17年 2月 28日

(写真は 2004/11/16 防災意識をたかめ自分たちでも自分たちを守るようにと、社協主催の防災タウンウォッチング、通学路で地震、津波の危険なところチェックの事業に参加中のこどもたち。僕が引率したこどもたちの姿)

朝から教育委員会で打ち合わせ。懇話会座長、副座長と PTA 会長

3月14日に、市会議員の皆さんの全員協議会が行われます。その場所をお借りして、懇話会から、懇話会での鳥羽小学校用地選定の経過を説明し、ねばり強く議論をつづけてプロセス、そして「あれもこれも」ではなく「あれかこれか」で今の鳥羽市の財政状況も踏まえた上での異なった価値観どうしのせめぎあいから、ついに最後まで袂を分かつことなくテーブルにつきつづけ、断腸の思いで決断をした尊さを訴え、改めて懇話会からの提案をします。これは座長を中心に行います。そして、PTA から、鳥羽小学校のこどもたちの新しい小学校への切ない思い、老朽化した学校の危険性などを伝えます。

鳥羽小学校のこどもたちの壁新聞が賞をとったそうですが、その縮小コピーを見せていただくと、数年前からの鳥羽小学校に関わる紆余曲折がつぶさに、新聞記事をはり集めて表現されており、なんだか切なくなってしまいました。

地元小浜町への「観光影響対策」についての報告も課長からありました。主に風営法の関わる建築制限などの切実な問題が、一部エリアに規制としてかかるということが課題なのですが、ひとつひとつ具体的に、観光関係の皆さんと解決策を協議しています。すべての関わる皆さんの切実さを大切にしながら、一步一步すすめてゆくとのこと。また、市民の皆さん PTA の皆さんへの公開説明会も企画中です。鳥羽市教育委員会、懇話会、PTA、

そして伊勢志摩 NPO ネットワークの会の協力のもと、予定では鳥羽小学校で、日程は未定ですが、行う予定です。課長の話によると先日、ライオンズクラブの会合で懇話会の経緯を会員の皆さんに説明したそうです。ライオンズの会員に懇話会のメンバーがいたため、くわしく聞きたいということになったそうです。

すべては、こどもたちの未来のために。

□一般市民向け公開説明会決まる 平成 17 年 3 月 10 日

★3/29 日(火) 19:00 から開催に決まりました。

場所は鳥羽小学校講堂を予定しています。

日程調整が難航していましたが、なんとか浅野先生の日程も合わせられました。

対象は鳥羽小学校 PTA の皆さんを主に、広く市民一般に公開します。

懇話会はもちろん、学校区の皆さん、自治会の皆さん、また、地元小浜町でご相談させていただいた観光関係の皆さん、旅館組合、観光協会、商工会議所などにも案内をさせていただきます。

資料として、市長への申し入れ書に、各回の懇話会の事項書、選定のための第五回の資料を中心に WS の様子の写真、三候補地の概略図、HP、HP に寄せられた意見、などです。

目的は、懇話会での議論の概要を理解していただくこと、特にそのプロセスを理解していただくこと。なぜ懇話会の総意として「小浜」なのかということを理解していただくこと、懇話会の情報を共有していただくこと、解決すべき課題の数々(特に通学路の安全安心確保と風営法にかかわる規制に関する「観光影響対策」と、今どうなっているのかを共有することです。

風営法にかかわる規制に関する「観光影響対策」について、教育委員会の方から、旅館組合長、観光協会長の皆さんと、個別にじっくりと懇談を持ち、用地選定の経緯について理解を深めていただきました。また、個別に、影響を受ける可能性のある観光業の方たちのところへも、懇話会の経緯を説明し、以前開催した勉強会とあわせて理解は進みつつあります。そして小学校の当該敷地の中で、校舎やグラウンドなどの配置計画を工夫することで、影響をかなり改善できることもわかってきました。

また、グラウンドの土ほこりへの懸念も言われましたが、それはグラウンドの砂質を風で飛ばにくい重い材料を使うなど、技術的配慮で対応も可能であるとのこと。そんな風に、鳥羽市というまちは、どこであろうと、「こどもたちのくらすところ」と「観光のまち」は共存共栄をしていくべきまちなのです。

■HPへの市民コメント

X

『鳥羽小学校の移転問題は近い将来予測される大地震を考えた場合、早期の決定・実施が望まれます。

現在問題として捉えられている「こどもたちのくらすところ」と「観光のまち」の共存共栄は「小浜」地区移転によって実現するように思えます。

「小浜」地区はバブル期にリゾートホテルの用地として造成された風光明媚な優れた立地でもあり海に面した鳥羽を象徴するような場所です。この場所から巣立って行く子供たちも立地に誇りをもてることと思います。一方、鳥羽市中心部においては一団のまとまった土地はほとんど無く、新たに造成するとなると費用もさることながら、残された自然環境を犠牲にせざるをえなくなります。それは小学校建設のためとはいえ最善の策とは言えないのではないのでしょうか。

「観光のまち」の資源として現小学校の場所は非常に優れております。まさしく「鳥羽城」です。戦国時代に日本一の水軍として名を轟かせた九鬼水軍の居城であり、明治まで鳥羽藩の城でした。小学校移転後に城址公園として城を一部復元し、歴史博物館などを建設すればきっと鳥羽市の観光客数も増加することと思われれます。全国的にも注目される可能性もあります。それはひいては子供たちにとって自分が育った郷土の誇りにつながっていくのではないのでしょうか。』

■ 第六回 みんなにわかってもらおう

～一般市民向け公開説明会～

日 時 : 2005/03/29 (金) 19:00～ 場 所: 鳥羽小学校講堂

テーマ : 「鳥羽小学校用地選定の経過と成果を

みんなにわかってもらおう」

レポート:

「鳥羽小学校用地選定懇話会の一般市民向け公開説明 WS」添付資料である「市長への申し入れ書」と、一枚資料のダイジェスト資料を、図書館にて閲覧できるように段取りをしました。本ブログに載せきれない資料のエッセンスを、ぜひ手にとって確かめてください。風説やうわさにまどわされず、本当の公開情報に触れてください。こどもたちのために、まちの未来のために、何が大切なことなのか、大人としての責任を果たすために。

■鳥羽小学校用地選定懇話会の「公開性」について

「鳥羽小学校用地選定懇話会の一般市民向け公開説明 WS」添付資料である「市長への申し入れ書」と、一枚資料のダイジェスト資料を、説明会にこられなかった皆さんに出来る限り伝えるために、各自治会を通して回覧板として閲覧をしていただく段取りとなっています。また同資料を、市内各種団体にも配布する予定です。

「鳥羽小学校用地選定懇話会の一般市民向け公開説明 WS」添付資料である「市長への申し入れ書」と、一枚資料のダイジェスト資料を、図書館にて閲覧できるように段取りをしています。

■鳥羽小学校用地選定説明会こんな感じでした

当日、模造紙相手にレコーダーのボランティアをしてきていた PonPon 事務局、伊勢の人の目には、この説明会はこんな風に写りました

29日に「鳥羽小学校用地懇話会説明会」が鳥羽小学校で開催され
「**どういう経過でその小浜に決まったのか**」というのを
反対…というか納得いかないヒトが半数を占める会場で
スケルさんが懇話会のファシリとして、ていねいに説明されました
これまでの経過、そして質疑、というか意見があつて
それに答えながら、最後には
これを逃したらもう小学校を建てる力は鳥羽市にはない!ということ
切々と「市民（PTAや、市民としてのスケルさん）から市民へ」早期実現を訴える部分
はこれまでの経過を見てきたものにとって、胸に詰まるものがありました
反対意見は、どこに決まっても出てくるものですが、
**PTAの方からは、「小浜までの通学路が危険すぎる」というのと
観光旅館の立場から、「小学校ができることで風営法などにひっかかり商売が制約される」
という
大きく2方向がありました。**

通学路の問題に関しては、

逆に、小浜の子どもからみたら他の候補地にきまったところで
当然それは問題になるべきコトであり、どこでも同じという意見もあつて
PTA的に、そういわれりゃなんともいいにくいな、というところで
説明会効果がありました。

**観光の話は、小学校なんかがあったら、観光価値が下がり、スケベな親父たちが小浜に泊
まりに来なくなる、という**

**よそから聞けば「？」な意見なんです、
これもこうして公開説明会できちんと意見も聞き**

市民の立場からの説明を聞いてもらえることは、市が折衝に行くのとは相手の理解はずいぶん違うと思います

行政が独自で進めるのではなく協働でやった意味が感じられました

それからPTAでがんばってきた副座長の最後の挨拶で

安全は行政に頼るものではなく親が考えていくことであるというのと

「Yさんの言葉ですが…」と前置きされた

「観光地の子どもは、お客さんにあつたらいらっしゃい、と挨拶できるくらいの子に育てやな」

というお話が、印象的でしたYさんは「カリスマPTA」やね。

■説明会ポストイット質問に対する教育委員会からの回答

以下鳥羽小学校用地選定説明会の最後にポストイットアンケートをしました。そこで出された質問に対する教育委員会からの回答をいただきましたので以下に転載します。引用枠で囲まれた部分が質問とそれに対する教育委員会の回答です。その他の地の文は僕の進行役=市民の立場からの補足です。

Q1.堅神の地権者の方々にお話を聞いていただいたのでしょうか？

やはり、交通・安全は小浜より堅神のほうがよいかなと思います。

Answer 1

地権者は11名の方々がおられます。そのうち、大部分を占める3名の地権者の方々とは、事前にお話をさせていただきました。

通学路等の安全確保につきましては、近くに公共交通機関（電車）の駅があり、交通安全といった面では、適地ではないかと考えます。しかし、総合的に早期実現を考えますと、「懇話会」からの申し入れ書の優先順位で取組みたいと考えております。

Q2.小浜の旅館経営者、数人の方が反対しています。もし学校建設をクリアできなかった場合、また学校建設が延びることもあります。今、地震が多く発生している中、このまま、この学校を何もせず放っておいてよいのでしょうか？

今いる子どもたちのことを第一に考えてほしいと思います。(PTA)

Answer 2

教育委員会では、子ども達が安全・安心のできる教育施設の環境整備を最優先課題として

取組んでいます。そして、平成19年度には新しい校舎で卒業式ができることを目標に早期建設に向けて取組んでいます。また、現校舎の緊急などを要する修繕については、その都度対応してゆきたいと考えます。

以前にもこのブログで書きました通り、小浜町に対する観光影響対策として、「学校周辺の風俗営業等の規制と許可範囲研修会」を行いました。観光業に関わる皆さんとともに、課題について研修しました。

さらに、風営法にかかわる規制に関する「観光影響対策」について、教育委員会の方から、旅館組合長、観光協会長の皆さんと、個別にじっくりと懇談を持ち、用地選定の経緯について理解を深めていただき、個々に影響の及ぶ可能性のある当事者の方と誠実に協議の機会を持つことを条件に、「組織」として「小学校を小浜に建てること」に反対はしない、とご返事をいただきました。(←担当のE課長の報告より)。また、個別に、影響を受ける可能性のある観光業の方たちのところへも、懇話会の経緯を説明し、以前開催した勉強会とあわせて理解は進み、ほぼ一事業所を除いて基本的に「合意」をいただきました。(←担当のE課長の報告より)。そして風営法にかかわる規制に関する影響は、小学校の当該敷地の中で、校舎やグラウンドなどの配置計画を工夫することで、影響をかなり改善できることもわかってきました。市長への申し入れ書に資料として添付されている、配置図はあくまでも懇話会での検討資料として企業から提案されたものであり、実際の配置計画はこれから作るのです。決まったわけではありません。これから、「協働」のスタンスで開かれた場を設けながら決めてゆくことですので、念のため。

Q3.今日 PTA の姿が少ないのはどうしてか理解していただいていますか？毎回なかなか進まず、何年も後回しにされ、早く建ててほしいという思いがあるのにと考える方も多く、行っても無駄だと怒る方もいます。今通っている子どもたちのため、もう嘘をつかず、しっかり進めていってほしい。今の校舎の耐震は調査なしですか？

(鳥羽小 PTA 母親)

Answer 3

ご指摘のとおり、いままで行政側の方針変更等により、小学校建設が遅滞し、現在に至っております。そのような反省をふまえ、教育委員会では「市民と行政の協働」作業による方法で市民合意を基本として建設用地の選定作業を進めてきました。PTA 保護者や市民皆さんの一層の力強いご支援、ご協力をいただき、早期建設をめざして更なる取組みを推進したいと考えます。

また、耐震調査につきましては、今後の小学校建設の進捗状況などを考慮し、検討したいと考えます。

■HPへの市民コメント

親の立場から

『市民公開の場といっても、小学校の親が来ていたのはほんの数人。時間や場所に問題があるのか？一番関心持って、この機会に経過を聞き、意見をのべないといけない立場の人間が来ていないと言うのは、どうなんだろうと思った。選ばれたとはいえ狭い視野の中での進行ではないかとも思ってしまうほどだった。開催の連絡の仕方か？ホントに関心がある人が少ないのか？他人まかせで決まってから文句いうのか？これから先に建っていて間違いない場所に建てたい！小浜は通学路や、地盤、船通学の為の設備、これらもひっくり返して予算を見ているのか？やはり市民の意見を一番に聞き、親が願っている場所に決めるのが理想。（困難な問題も多くあるのは承知）と思う。お金の問題と早期実現だけの理由で一番の候補になるのはやっぱり納得がいかない。やってもないうちから、赤崎を候補地からはずすのは、それはもったいない。どう考えても無理という1意見の考えも市民でなんとか努力していくのも必要ではないか。子どもがそりゃ一番だが地域の人々の安全性も含め、避難場所や地域交流が活発にできる場所も視野に入れてほしい。

上のレポートもこれまでやってきたという思いのことばかりが伝わり、小浜にも小学校がある状況で、小浜以外で決まったら通学路が問題だといわれるのは、本町方面からの児童数と小浜地区の児童数の違いで納得とおもいます！

市長がこの鳥羽小学校問題の指揮をとっていない状況で、安心安全はやはり、市民、親が考えていくことは当然でしょう。

新☆市長には大いに期待しています！！』

【アドバイザー所見】 「協議の意義」

■鳥羽市小学校建設用地選定懇話会における協議の意義

アドバイザー 浅野 聡（三重大学 助教授）

鳥羽小学校の建設用地の選定にあたり懇話会が立ち上げられ、熱心に議論が積み重ねられてきましたが、今回の取り組みにはいくつかの大きな意義があると考えています。

第1には、懇話会メンバーが最後まで議論の場に出席し続け、最終的に明確な結論（小浜の用地を選定）を出したことです。懇話会において意見が大きく割れて分裂することは

なく、最後まで落ち着いて合理的な検討を行い、会として納得のいく結論を導きました。

第2には、今回の取り組みは行政主導で行われたのではなく、第3者としての中立的な立場でNPO 法人伊勢志摩 NPO ネットワークの会が全体の進行をマネジメントし、そこに市民と行政が参加して協働で検討したことです。最初に結論ありきではなく、また肩書きにとらわれずに、NPO 法人が司会進行をしながら、互いに対等な関係の中でメンバーの自主性を尊重する議論のスタイルとしました。

第3には、議論のプロセス（途中経過）の在り方にも工夫をこらし、毎回の会議はすべて公開とすると共に、途中経過をホームページや広報に掲載するなど、透明性・公開性を出来る限り担保することにも努めたことです。

これらの点は、今後、鳥羽市において市民、NPO、行政などによる協働型まちづくりを本格的に進めて行く上で、いずれも欠かすことの出来ない重要なものであり、今後に向けての意義ある知見が得られたと思います。私の知る限り、市民と行政の協働で小学校の建設用地の選定に取り組んだことは全国的にもあまり例がなく、三重県内に限ってみても大変に高い先進性を持っているはずです。

最後まで責任を持って取り組まれた懇話会メンバー、NPO 法人伊勢志摩 NPO ネットワーク、鳥羽市教育委員会の皆様に敬意を表したいと思います。

【総括】 「協働のしくみ及び、ビジョンの未成熟が課題」

協働コーディネーター担当事務局次長 川村 透

本事業をふりかえってみると、時々刻々とタイムリミットに近づきつつある**時限爆弾**を処理していたように感じる。そして、**災害復旧**のためのボランティアセンターの運営をしていたかのように、**緊急避難的に「これしかない」**協働型意思決定の手法を次から次へと繰り出さなければならなかった。そして本事業の成果を鳥羽市が受け入れていただいて初めて、新しい鳥羽小学校建設というものが、やっとスタートラインに立つのである。

懇話会がスタートする時、すでに行政と市民、特に当事者であるPTA との間の信頼関係は風前の灯であったとあっていい。伊勢志摩 NPO ネットワークの会内部でも、火中の栗を拾うような本事業受託に関しては疑問視する声も出た。われわれが本事業を受託したのは、懇話会4番目の目的である、「**市民、行政、企業、が信頼関係を深め、協働のスタンスや仕組みが鳥羽にいきづくようなプロセスをともに創ってゆく。**」を果たすためである。このままでは、**鳥羽における協働のまちづくりが成り立たなくなる、そんな深刻な事態**であった。

懇話会の企画進行役として、行政と市民の間に立って参加のデザインに汗を流す現場だ

からこそ見えてきた課題がふたつある。

ひとつは、従来から指摘しつづけてきたように、「協働型意思決定」のための仕組みがないということ。鳥羽市に限らず行政においては、一般の市民、独立した市民セクターと「協働」で課題解決にあたる習慣がなかった。ゆえに職員の技能の中で、異なった価値観と価値観をすりあわせて公正公平に、フラットで透明な場づくりをし、公の目的からずれずに意思決定をする「協働型会議」の技能が立ち遅れている。そして、多様な市民層とともに「公」をささえるためのシステム、仕組み、ルールが不在か、あるいは深刻なミスマッチをおこしているのである。

具体的には、本事業において苦肉の策として採用した、実務者ワークショップがある。鳥羽小学校建設に関わるであろうと想定される各課の実務担当者を集めて行ったのだが、事前に、致命的になるまえに課題を抽出する、予防的な「評価」のシステムがないのである。さらに懇話会受託の際、「協働型契約」に相当するものがない。ワークショップの位置づけ、その決定事項に対して、市民との約束をきちんと果たせるだけの「効力」がもたせられるのかどうか不明確である。直接民主主義的なワークショップと、間接民主主義のシステムである議会との関係も未成熟であり、「協働」は「想定外」なのか、とさえ思えるほどだ。

ふたつめは、鳥羽市における、まちづくり、都市計画、土地利用に関わるビジョン、ランドデザインがない、あるいはきちんと共有されていないこと、である。小学校用地を選定する際に、目的として

③ 鳥羽のこれからのまちづくりとの整合性を熟慮した上で用地を考える

(第二回懇話会において、まちづくりとの整合性についての議論は、鳥羽市が別の機会を設けるということを条件に、教育委員会の持つ将来の教育環境(学校統廃合含む)ビジョンを前提とした「整合性」に限定することとした。)

とせざるを得ないほど、しっかりした土台がないのである。これはすべて実務者 WS で明らかになったことである。将来の教育環境のビジョンにしても、そのコンセンサスづくりは「これからの課題」なのである。

ビジョンの不在は、まちづくりにおいて、やむを得ず「場当たり」的な意思決定をせざるを得ない状況をつくりだす。まちのランドデザインの不在は、個々の、分野、団体別ビジョンの乱立を示している。その整合性をとるべき芯、地盤が脆弱なのである。この状況が、鳥羽というまちのすべての課題の根本にある。そして公共事業における意思決定の

場面が、極めて覇権的な「野生の王国」へと陥るリスクを負っているのだ。

鳥羽小学校建設の方針が二転、三転したことが、これらの課題を浮き彫りにしていると言えよう。

さまざまな、システム上の、あるいはビジョン上の未成熟さは、ある意味、理不尽であるときえ言えるほど深刻な負担を、すべて「現場」へと押し付けがちになってしまう。そして現実問題として、現場には「協働をコーディネート」する技能も余裕も資源も、すべて不十分なのである。そして本来、行政、市民、というその課題の当事者とは別の立場、**第三者的立場のセクターが「協働をコーディネート」する「通訳」として「異文化交流」の橋渡しをしなければ土台無理な話なのだ。**市民の誠実と行政の誠実、それは「異質である」というところから始めなければ傷つけあう不幸を呼ぶ。それはデリケートな「参加のデザイン」によってしかクリアできない。「協働コーディネート」とは極めて「専門性」の高い技術なのである。

協働のまちづくりは、まちの漢方薬であり、健康法である。常日頃から心がけ、時間をかけてじっくりと信頼関係を築きながら、ゆっくりと、企画の根っこから共有していかなければならない。「協働」という言葉が、あまりにも**便利な魔法の言葉**になりすぎている。漢方薬を抗生物質のように使うのは無茶なのである。そして漢方には漢方の処方がある。無茶したら患者を殺す結果となる、10年かけて。漢方での失敗は急にはわからない。5年、10年かけて着実にまちの健康を奪うのだ。

本懇話会の成果がきちんと評価され、少しでも、この尊いプロセスが生かせるまちであってほしいと、切に願うものである。

参考資料)

■NPO 法人伊勢志摩 NPO ネットワークの会とは

<http://www.po-npo-n.com/>

NPO 法人伊勢志摩 NPO ネットワークの会 (Powerful=力強くて、Positive=積極的で、Possible=可能性を信じる NPO の NETWORK、これを PONPON と略称する) は、伊勢志摩を NPO のいきづく地域にするために既存の市民団体、市民がスクラムを組み、新たな市民団体や責任ある市民を増やしていき、行政や企業と協働し、自立して快適で活力ある地域を創出する推進力をみんなで創ろうというネットワークである。

PONPON の活動は、事務局運営、広報誌 (伊勢志摩ぼんぼん通信) の発行、HP と ML の運営、主にメンバー対象の支援、研修、定例会などを通じた交流、情報交換、そしてミッションに合う協働事業の受託などである。最近の活動としては「伊勢市市民活動センター (仮

称) 検討委員会」を通して提言をまとめ、センター運営のサポートが始まりつつある。「WS派遣事業」としては、行政職員のための「協働」講座など多数、鈴鹿市主催「みんなをつなぐワークショップ」「NPOが元気な鳥羽をつくるワークショップ」「鳥羽市職員ファシリテーター研修」など。

参考論文)

■NPOのいきづつまちを目指して～協働の現場から

<http://www.po-npo-n.com/NPOreport/repo-sukeru.html>

寄稿 2004 夏季「地域政策・あすの三重」(企画編集 三重県 政策開発研修センター)